

第26回

学生と教職員の交流の場

学内と社会を結ぶ交流の場

琉大21世紀フォーラム



日時

平成21年 1月30日(金)
17:15 ~ 18:15

場所

琉球大学法文学部新棟 2階215教室

話題：「沖縄におけるブロードバンド通信ネットワークの危機！」～ 琉大から世界へ～

発表者：波平 宜敬 (なみひら よしのり)

(琉球大学工学部教授, 中国・大連工業大学客員教授, 工学博士, IEICE Fellow)

今、超大容量テラビット光海底ケーブルネットワークは、沖縄を避けて台湾や中国に接続されており、沖縄のブロードバンド光通信が危機に瀕しているのをご存じですか？国連の一機関ITU-T(国際電気通信連合)の日本代表を約20年間勤め、提案した極低損失光ファイバ(ITU-T G.654, 通称:波平ファイバ)は国際標準化され、1994年に日米間太平洋横断光海底ケーブル及び2005年に沖縄本島-宮古島間に世界最長350km無中継光海底ケーブルとして実用化されています。そのため、“光ファイバの第一人者”として、2005年5月にNHKプロジェクトXで、公看の母・与那覇しづ(86歳)と共に全国に報道され、2008年12月には、琉球朝日放送QABで、“フェロー祝賀会”の様子が紹介されました。東北大学初の2002年度ノーベル化学賞受賞者の田中耕一氏を育てた虫明康人(87歳)・安達三郎(78歳)両東北大学名誉教授から直接工学博士学位の指導を受けた影響により、波平研究室の留学生は、2007年度学長賞&研究科長賞&IEEE主催CLEO/PR2007学生賞、2008年丸文研究交流助成、2009年日本学術振興会JSPSポスドク決定、光通信世界最大のIEEE/OSA主催OFC2009(米国)に論文採録決定、2009年丸文研究交流助成に連続受賞決定しています。2008年に“琉大からノーベル賞”を合言葉に学内横断型の“琉大ドリムチーム”を結成し、若手研究者の育成を始めています。グローバル経済不況や厳しい就職難を生き抜くための心構えは『目標を定め、集中し、ピュアなプラス思考で、努力し続けるならば、目標は必ず達成できる』。

発表者プロフィール



波平 宜敬
琉球大学工学部教授

＜略歴＞

- ・1949年10月 日本最西端与那国島に生まれる(丑年)
- ・1973年:琉球大学理工学部電気工学科卒
- ・1972年9月:東北大学通信工学科 虫明康人研究室(卒業研究留学)
- ・東北大学大学院工学研究科 {工学修士(1976),工学博士(1979)}
- ・1979-2000年:国際電信電話(KDD)総研研究所
- ・1985-2003年:ITU-T(国際電気通信連合電気通信標準化部門)日本代表@ジュネーブ
- ・2001年4月:琉球大学工学部 電気電子工学科 教授

- ・2008年7月:中国・大連工業大学 無期限「客員教授」
- ・2008年11月:琉大亜熱帯島嶼科学機構ライジングスター・メンター教員<受賞>
- ・1983年9月:英国電気学会EE“1982/83 Electronics Letters Premium”論文賞
- ・1985年4月:国際電信電話(KDD)(株)“社長表彰”
- ・1990年7月:OEC'90“The Best Paper Award(最優秀論文賞)”
- ・1992年7月:OEC'92“The Best Paper Award(最優秀論文賞)”
- ・1994年11月:IWCS'93“The Best Paper Award(最優秀論文賞)”
- ・2007年8月:琉球大学工学部“教育貢献賞”(2006年度電気電子工学科JABEE認定達成に貢献)
- ・2008年7月:中国・大連工業大学“荣誉證書(感謝状)”
- ・2008年8月:琉球大学工学部“研究貢献賞”
- ・2008年9月:(社)電子情報通信学会“フェロー称号”受賞

主な著書:『DWDM光測定技術』(編著),オプトロニクス社(2001年),『光測定器ガイド』(共著),オプトロニクス社(1998年),『光海底ケーブル通信』(共著),KEC出版(1991年)など多数。

問合せ先:琉球大学学術国際部地域連携推進室 TEL:098-895-8019

(事前に参加登録する必要はありません)

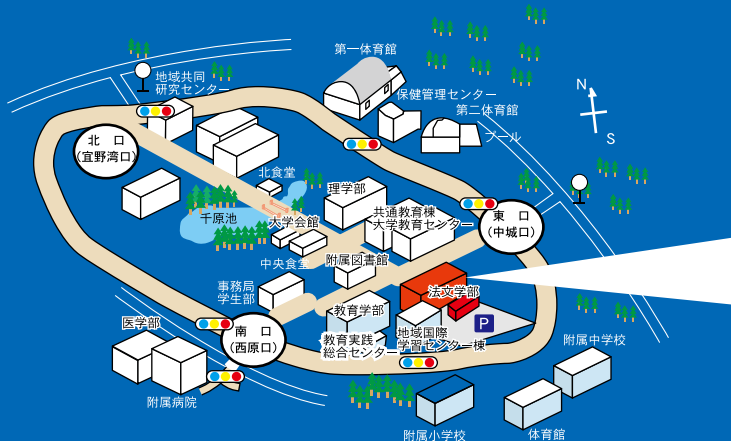


●今後のフォーラム（予定）●

第27回 講師：Prof. Colin William Binns (琉球大学大学院保健学研究科客員教授)
 話題：「Public Health Nutrient Challenges in the 21st Century
 (21世紀公衆衛生栄養の課題)」 ※ 英語による講演
 日時：2009年2月27日（金） 17：15～18：15

※なお、学外来訪者において臨時フォーラムを開催することがあります。

建物配置図



法文学部新棟2階

